

一〇一五年一〇月四日

鷺群れて刈田のあとを啄めり

秋霖の街にくぐもるミサの鐘

青空に羽衣めきし秋の雲

身罷りしいのちにも似て流れ星

猫額の狭庭なれども秋氣満つ

一〇一五年一〇月三日

パノラマに花野を望むカフェテラス

秋風や一人居に家広すぎて

身に入むや数百体の水子地蔵

秋霖に滲む巨影は石舞台

一〇一五年一〇月二日

槌音の駒す天の高きより

落つ秋日水平線を黄金に

春く日展ぶ梨園の広さかな

一〇一五年一〇月一日

秋薔薇の粗なるアーチを風抜ける

一〇一五年九月三〇日

人のゐぬテニスコートに赤蜻蛉

一〇一五年九月二九日

曼珠沙華燃え立つなかに忠魂碑

風に伏す秋草剪つて生けにけり

タクト振るものの居るらし虫の楽

千鶴子あひる山澄よし女康明日香

木の実落ち日の斑の徑に紛れけり  
えいじ

毎日句会みのる選・一〇一五年一〇月六日

えいじ